



# 漁獲外傷魚の延命・回復技術の開発

～ 漁獲魚を生けす飼育で安定供給！ ～

連携機関 | せとうち漁師市場, 深江漁業協同組合

研究期間 | 平成21～23年度[県費研究(開発研究)]

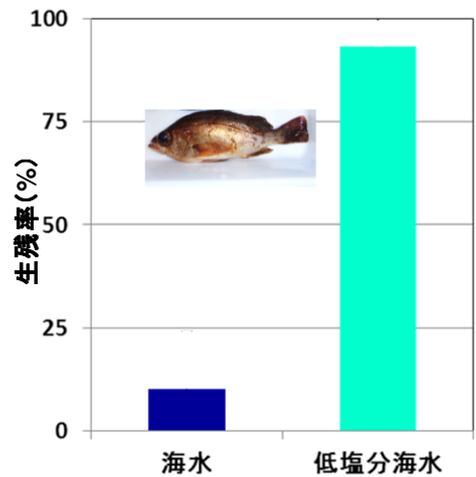
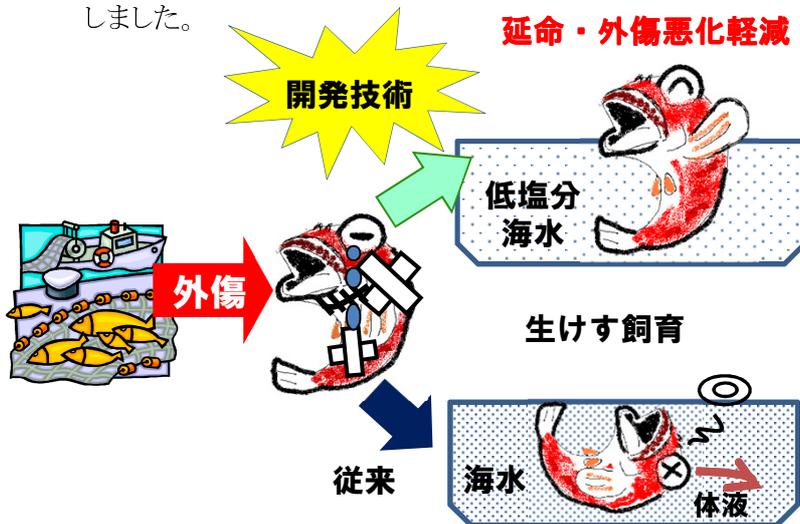
平成23年度[競争的資金研究<sup>注</sup>] 注(独)JST 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

## 研究開発のきっかけ

- ◆ 刺し網漁や底びき網漁で傷ついた魚は生けすでの長期飼育が難しく、水揚げ後すぐに出荷するしかありませんでした。一方で不漁や悪天候で出漁できないときは魚を出荷できず、消費者に新鮮な魚を安定提供できていませんでした。
- ◆ 魚の体液は海水よりも濃度が薄いため、海水中では傷から体液が流出してしまうことに気がきました。
- ◆ 体液が流出しない低塩分海水の生けすなら傷ついた魚も元気に長生きすると考えました。

## 研究成果の概要

- ◆ 漁獲で傷ついた魚を、低塩分海水の生けすで元気に長生きさせる「漁獲魚を活かす技術」を開発しました。
- ◆ 低塩分海水で傷ついた魚の自然治癒力を高め、外傷悪化を軽減します。
- ◆ 瀬戸内海沿岸で漁獲される魚を中心に、延命・外傷悪化軽減に最適な塩分濃度を魚種ごとに明らかにしました。



技術活用による延命効果  
(アカメバルの7日後の生残率の比較)

漁獲魚の延命・外傷悪化軽減効果のイメージ

## 研究成果の活用状況

- ◆ 「海水魚の延命および/または外傷回復方法, ならびにこの方法で処理した海水魚」(特開2012-200167)として特許出願中です。
- ◆ 福山市の「せとうち漁師市場」は、この技術を導入して活魚・鮮魚販売事業を拡大中です。
- ◆ 江田島市の「深江漁業協同組合」では、この技術を活用した計画的な出荷により、「江田島メバル」のブランド化を進めています。
- ◆ 遠方への輸送も可能で、海外進出を視野に入れた新たなビジネス展開も可能となります。

問い合わせ先 | 水産海洋技術センター 技術支援部 | TEL 0823-51-2173